7/1 神戸新聞 スポーツ面

陸上

西日本学生対校選手権

多田 余裕の10秒16

追い風参考「決勝 最低でも0台」

男子100㍍準決勝 10秒16で決勝に進出した多田修平（手前）

陸上の西日本学生対校選手権は30日、広島市の広島で開幕し、男子100㍍で8月の世界選手権（ロンドン）代表に選ばれた多田修平（関学大）は、追い風2・3㍍の参考記録で10秒16をマークして準決勝1組の1着となり、7月1日の決勝に進んだ。予選は追い風1・0㍍で10秒40だった。

多田は24日の日本選手権男子100㍍決勝を10秒16で走り、サニブラウン・ハキーム（東京陸協）に次ぐ2位。10日の日本学生個人選手権では追い風4・5㍍の参考記録で9秒94をマークした。

男子走り高跳びは竹村慎之介（関学大）が2㍍16で優勝。女子三段跳びは恵良和鈴（武庫川女大）が追い風参考の12㍍77で頂点に立った。

高いレベルでしのぎを削った日本選手権から中5日でのレース。男子100㍍の多田は「疲労は多少残っている」と言う。それでも準決勝では終盤を流して10秒16を記録。世界選手権をつかんだ力をあらためて証明した。

予選は体調を考慮して「アップの感じで走った」。40㍍手前で早くも力を抜いて10秒40。準決勝も終盤に何度も横を見る余裕の走りだった。2・3㍍の追い風を受けて参考記録になったとはいえ「だいぶ力はついてきた」と成長に胸を張った。

4月29日に同じ会場で行われた織田記念国際では、向かい風0・3㍍の中で10秒04を出した桐生祥秀（東洋大）に力の差を見せつけられ、10秒24で2位だった。その後「スタートがはまるようになってきた」と抜群の出足を武器に急成長。中盤の加速にも磨きがかかり、約2カ月後には日本人初の9秒台突入を期待される存在までになった。

ただ、今回は万全の状態ではないことも自覚している。決勝に向け「自己ベスト（10秒08）を更新できたらうれしい。最低でも10秒0台で走りたい」と目標を口にした。